

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 23 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	櫻井和典
研究課題	コラボレーション力の重要性および自己肯定感、自己効力感との関係について				
研究キーワード	主体性、自己肯定感、自己効力感	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	8. 働きがいも経済成長も	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

このコラボレーション力の大切さを学生に伝える上で、キーワードとなるのが、主体性、自己肯定感、自己効力感などである。

ただ、自己肯定感や効力感はもちろんのこと、主体性もしっかりと兼ね備えて就活に臨むと言う学生は現在のところそう多くはない。今後の課題としては、如何に1, 2年のうちにこれらの能力を身につけさせるかだが、それと同時に、身につけることができなかつた学生に対して、それこそ就活を通してこの能力を身につけさせていくことも大事である。就活までに備えることが理想ではあるが、就活自体も実はその能力を身につけるチャンスだと言うことを指導者も意識するべきである。就活はゴールではなく、それ以降も続く学生のキャリアの中では、あくまでも途中経過である。活動開始の時点での自分の状態（価値観や基礎能力、思考力など）を的確に把握し、記録、活動を進めていく中で、それがどのように変わっていったか、常に確認していくことでわずかであっても成長を自覚することができる。それが、自己肯定感の芽生えであり、やがて就活が成功することで自己効力感をはっきりと意識するようになる。性格上、早めに活動しなかつた学生にも如何にして自己肯定感、自己効力感を身につけさせ送り出すか。教員と学生、職員が一つのチームとなって取り組む就活も、広い意味ではアクティブ・ラーニングの一環であると思う。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

とくになし

【著書・論文（査読なし）】

とくになし

【学会発表等】

とくになし

3. 主な経費

とくになし

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

とくになし

(本文は2ページ以内にまとめること)